

「卒部生送迎式での前主将挨拶（後輩たち、お世話になった方々へ）」

2017年12月10日

執筆者：高橋 健太郎

(高知県 明德義塾高校出身)

はじめに、本日は卒部生のためにこのような盛大な式を開いていただき、本当にありがとうございます。私たち15人がこうして卒部を迎えられるのも、指導陣をはじめOBの先輩方、立命館大学体育会剣道部に関わる全ての方々ののおかげだと感じております。卒部生を代表してお礼申し上げます。

後輩の皆さん、1年間このやかましいキャプテン、幹部たちについてきてくれてありがとうございます。ついてくるのが大変な部分もあったと思いますが、よく頑張ってくれたと思います。

幹部になりこの剣道部を根元から変えてやろうと思いました。新しいメニューを入れたり週間目標を作ったり、ときには稽古の前に鏡の前で素振りをする姿を見せたり、様々な取り組みをしてきました。効果があったなと思うところもありますが、一番大事な結果を残すということができなかったことは、私たち幹部の力不足であり申し訳なく思います。その部分は後輩の皆さんに思いを託したいと思います。

キャプテンとして最後に、2つアドバイスを送ります。

1つは、しっかりと考える力を養ってほしいということです。この剣道部は学生主体という特殊な組織です。学生主体は自分のやりたいことができると言えば聞こえがいいですが、何もやらない、もしくはやっても中身が薄いものではすぐに自分自身を潰してしまう、いわば諸刃の剣です。この学生主体の長所を活かすためにも、考える力を養ってください。今なにをしなきゃいけないのか、これからどうしなきゃいけないのか、しっかり考えて剣道や組織、それ以外のことにも向き合ってほしいです。そうすれば、見えてくるもの得られるもの、たくさんあるはずです。

2つ目は、リスクを恐れないでほしいということです。僕自身この剣道部を少しは変えたのではないかなと思う部分はありますが、これからの剣道界で生き残っていくためにはまだまだ変わっていかないとはいけません。同じように思っている人も少なからずいると思います。その際なにかを変えようとするれば必ずリスクが伴います。そのリスクを恐れないでください。リスクを恐れてなにもしないようでは、いつまでも掲げた目標には到達できないと思います。なので、まずは、リスクを恐れず行動を起こしてください。もちろん成功すればいいですが、失敗したって全然いいと思います。次はその失敗を、反省を活かしてリスクを下げ、また挑戦すれば、なにもしないよりは絶対にいい方向に変わっているはずです。

考える力を存分に発揮し、リスクを恐れず行動を起こし、もっともっといい剣道部になることを期待しています。

最後になりますが、卒部生のほとんどはこれから新たなステージでのスタートになります。しんどいことや辛いことたくさんあると思いますが、この剣道部で学んだことを活かして、ゼロから始まる社会人生、強く生き抜いていきます。また機会があれば道場に顔を出したいと思いますのでその時はよろしくお願ひします。頑張ってください。

本日はありがとうございました。